

～健康管理だより～

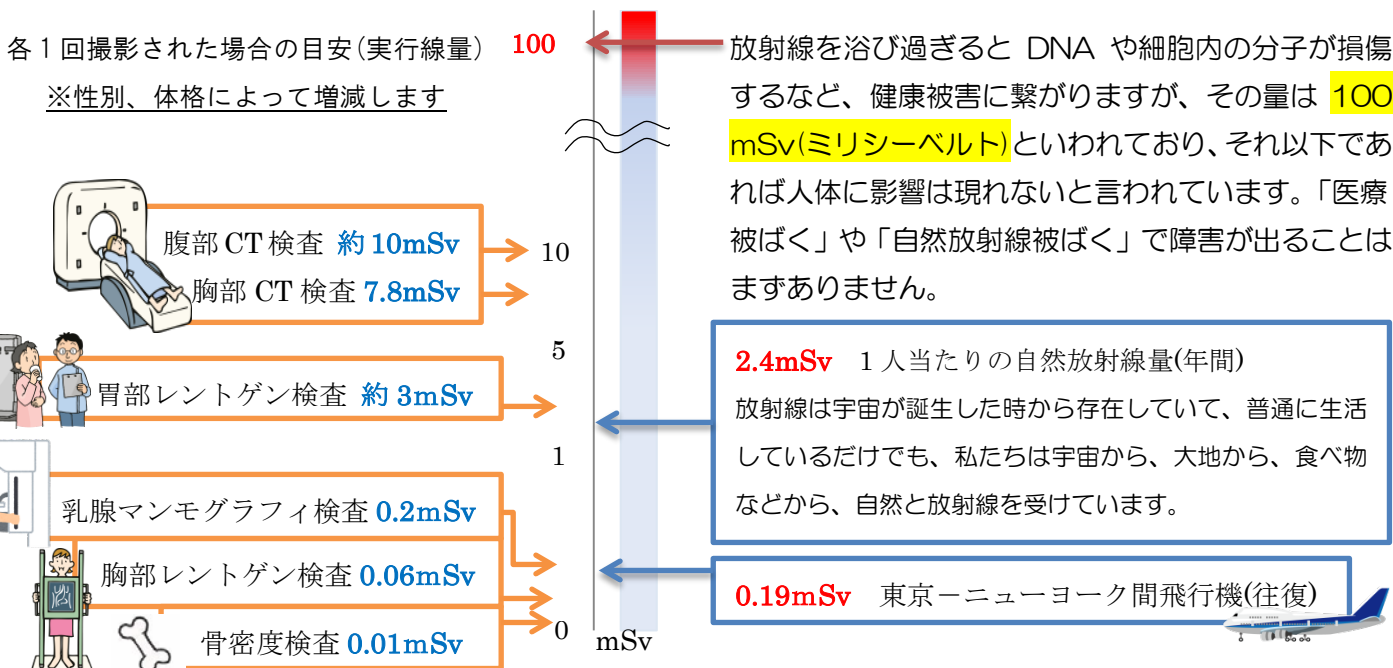
第27回は、「検査の放射線量」について考えてみたいと思います。



放射性物質は、人体に影響を与える危険性があり、健診で受ける検査の放射線被ばく線量を気にされている方も多いかと思います。しかしどの検査でもメリット・デメリットがあります。放射線被ばくをむやみに恐れるのではなく、正しく理解したうえで行動することが大切です。

放射線の量とその影響

放射線の被ばく線量を示す単位として、Sv(シーベルト)が使われています。Sv は放射線が「人」に当たった時にどれくらいの影響があるかを表します。



よって当健診センターでの様々な検査で浴びる放射線量

①例えば人間ドックを受診した場合、

胸部レントゲン検査、胃部レントゲン検査、骨密度測定検査⇒合計 約 3.07mSv

②人間ドックにオプション項目(乳腺マンモグラフィ検査、胸部CT検査)を追加した場合、

上記3項目検査(①)+乳腺マンモグラフィ検査、胸部CT検査⇒合計 約 11.07mSv



このように、人間ドックでの検査において被ばくする放射線量は、健康に影響を及ぼす可能性のある量に至らないと考えられます。また、放射線を使用した検査は病気の早期発見や病気の状態を知るために必要な場合もあります。無害であると言い切ることはできませんが、適切に使用すればメリットにもなり得ます。正しい知識を持って安心して検査を受けていただければと思います。

放射性物質は、身体にたまってしまうの？

放射線物質は時間の経過とともに減少する性質があります。光を浴びると同じで、放射性物質が身体に残ることはありません。放射線物質は時間の経過とともに減少する性質があります。体内に入った放射性物質は代謝や排泄などの生物学的な仕組みにより体外に排泄され、減少していきます。